

Ciné-là 5

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

fiaf

国際フィルム・アーカイヴ連盟=FIAFは映画の保存を目的とする国際団体です。福岡市総合図書館はFIAFの会員です。

May.2013 vol.194

木下恵介監督生誕100年記念。
木下作品の多彩な魅力を紹介。

善魔 ©1951松竹株式会社



破戒 ©1948松竹株式会社



特別企画

木下恵介
生誕100年

木下恵介監督特集

木下恵介監督生誕100年記念。木下作品の多彩な魅力を紹介。

木下恵介監督特集

主催：松竹株式会社 福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ実行委員会 共催：東京国立近代美術館フィルムセンター



海の花火 ©1951松竹株式会社

会期：5月2日(木)～5月26日(日) ※休館日・休映日除く

観覧料：600円(大人)/500円(大学生・高校生)/400円(中学生・小学生)

※定員制。各回入替制。

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※障がい者の方及び福岡市在住の65歳以上の方は300円。(手帳の提示が必要です。)

※「わの会」会員は300円(会員証の提示が必要です。)



3 (金・祝) 14:00 | 18 (土) 11:00 | 26 (日) 11:00



破れ太鼓

津田軍平は一代で建設会社を興したワンマン社長。軍平は4男2女の父親だったが、家庭でも頑固な暴君であり、子供たちは陰で「破れ太鼓」とあだ名をつける。長男太郎は会社で軍平の鞆持ちだが、叔母とオルゴールの会社を興そうとする。長女の秋子は会社の資金繰りのため資産家の息子と婚約させられており、父親に反発するのだった。

本作は阪東妻三郎という時代劇の大スターを主役に起用したところから始まり、木下監督が阪妻で現代劇を作りたいたと、小林正樹と共に脚本を執筆した。まるでヒトラを思わせる独裁的な親父と、反発する6人の子供とのドタバタぶりがコミカルに描かれており、阪東妻三郎が見事にこれに答える演技をしている。木下監督の実弟木下忠司が音楽家志望の息子役で出演し、音楽映画のような作品にもなっている。木下監督のコメディ映画の傑作である。



監督：木下恵介 ©1949松竹株式会社
出演：阪東妻三郎 森雅之

1949年/35ミリ/モノクロ/108分/松竹

2 (木) 11:00 | 11 (土) 11:00 | 25 (土) 11:00

花咲く港

南九州の小島の村。かつて村の尊敬を集めた渡瀬という男の遺児が島にやって来る。島の人々は大歓迎するのだが、そのすぐ後にやはり遺児だと名乗る男がやって来る。実は二人とも詐欺師で、村人を騙して金儲けをしようと企んでいた。木下監督のデビュー作。小心者の二人の詐欺師がコミカルに描かれ、監督デビューとは思えない手腕が光る。



監督：木下恵介 ©1943松竹株式会社
出演：小澤栄太郎 上原謙

1943年/35ミリ/モノクロ/82分/松竹

2 (木) 14:00 | 10 (金) 11:00 | 12 (日) 11:00

歓呼の町

箏を教える母親を持つ慎吾は、隣に住むたか子と結婚を約束していた。慎吾の家の向かいは風呂屋だが、土地に愛着を持つ頑固な主人は軍の疎開指示に従おうとしない。疎開促進を目的とした国策映画。疎開を迫られた3件の家の3日間を描いた人情味あふれる作品。「疎開を悲しく描いてはいけない」と軍から指示されているが、それでも木下監督らしい作品となった。



監督：木下恵介 ©1944松竹株式会社
出演：上原謙 東野英治郎

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品

1944年/35ミリ/モノクロ/73分/松竹

3 (金・祝) 11:00 | 10 (金) 14:00 | 16 (木) 14:00

女

東京の歌劇団で踊る敏子の元に、腐れ縁の町田という男がやって来て、浜松に行こうと敏子を強引に連れ出す。敏子は町田が強盗を働き逃亡中であることを悟り逃げ出そうとするのだが、町田は必死に敏子を懐柔しようとする。登場人物はほぼ2人だけで、男女の心理がサスペンスフルに描かれる。黒澤明が絶賛した秀作。



監督：木下恵介 ©1948松竹株式会社
出演：水戸光子 小澤栄太郎

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品

1948年/35ミリ/モノクロ/67分/松竹

3 (金・祝) 16:30 | 15 (水) 11:00 | 25 (土) 14:00

破戒

明治35年の信州。被差別部落出身の教師瀬川丑松は父の遺言で出身を隠していた。丑松は同じく部落出身で自由民権の論客猪子の思想に共鳴するが、なかなか自分の出身を明かすことはできなかった。島崎藤村の名作文学の映画化。木下監督は原作を読まずに演出したという。部落問題だけでなく、青春映画としても見る事ができる作品。



監督：木下恵介 ©1948松竹株式会社
出演：池部良 桂木洋子

1948年/16ミリ/モノクロ/99分/松竹

4 (土・祝) 11:00 | 11 (土) 17:00 | 17 (金) 11:00

婚約指環

江間猛は伊豆で療養をする九鬼道雄の主治医として毎週末伊豆に通う。道雄には典子という美しい妻があり、銀座で貴金属店を営んでいるため、彼女も夫の世話をするのは週末だけだった。二人は次第に惹かれあっていく。三角関係を描いたいわゆる「よるめきドラマ」で、田中絹代がアメリカから帰国して主演した最初の作品。文豪・三島由紀夫が褒めた作品としても有名。



監督：木下恵介 ©1950松竹株式会社
主演：田中絹代 三船敏郎

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品
1950年/35ミリ/モノクロ/96分/松竹=田中絹代プロ

4 (土・祝) 14:00 | 12 (日) 14:00 | 16 (木) 11:00

善魔

新聞社の記者中沼は、大蔵省の北浦部長の妻、伊都子が家出したという情報をつかみ、部下の三国に調査を命じる。実は中沼は学生時代、伊都子とお互い好意を持っていた過去があった。岸田国土の同名小説の映画化。本作は三国連太郎のデビュー作だが、見事な演技でブルーリボン新人賞を受賞。また本作の役名をそのまま芸名にしたことで有名。



監督：木下恵介 ©1951松竹株式会社
出演：森雅之 三国連太郎

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品
1951年/35ミリ/モノクロ/108分/松竹

4 (土・祝) 16:30 | 19 (日) 11:00 | 24 (金) 11:00

遠い雲

石津は故郷の高山に帰り、かつて恋仲だった冬子と再会する。冬子は家の借金のため市会議員の息子と結婚し、子供もいたが、夫はすでに死亡していた。二人はかつての感情が蘇るが、冬子は世間体を気にするのだった。家庭と愛情の間で揺れる冬子を高峰秀子が好演する。飛騨高山の街と自然も美しい。



監督：木下恵介 ©1955松竹株式会社
出演：高峰秀子 佐田啓二

1955年/35ミリ/モノクロ/99分/松竹

5 (日・祝) 11:00 | 18 (土) 17:00 | 24 (金) 14:00

太陽とバラ

湘南海岸・秋山清は貧しさのためグレており、仲間と盗みなどをしていた。清は母親の努力により工場で働くのだが、社長の息子・正比呂は何不自由なく遊ぶ太陽族であり、清を仲間に入れようとする。当時流行した太陽族への批判として製作された映画。56年ゴールデングローブ賞外国語映画賞を受賞した作品。



監督：木下恵介 ©1956松竹株式会社
出演：中村賀津雄 石浜朗

1956年/35ミリ/モノクロ/85分/松竹

5 (日・祝) 14:00 | 11 (土) 14:00 | 17 (金) 14:00

海の花火

佐賀県呼子。神谷は尽力して漁業組合を設立するが、悪徳船長のため赤字続きだった。神谷は新しい船長を雇い、一時は持ち直すが、今度は政府が減船令を出し窮地に陥ってしまう。撮影の大半が呼子で行われ、呼子の祭りなどが挿入されている。登場人物も多く、木下監督には珍しいアクションシーンなどは注目である。



監督：木下恵介 ©1951松竹株式会社
出演：木暮実千代 笠智衆

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品
1951年/35ミリ/モノクロ/122分/松竹

6 (月・祝) 11:00 | 23 (木) 11:00 | 25 (土) 17:00

風花

信州善光寺平。大地主の息子英雄と小作人の娘春子は許されぬ恋をし、二人で心中する。ところが春子だけ助かり、妊娠していたことから春子は地主の家に入る。しかしそれは春子と子供にとって苦渋の毎日だった。木下恵介が岸恵子のために書き下ろした脚本。因習に囚われた旧家で繰り返される悲恋を、美しい信州の自然と共に描く。木下監督の隠れた傑作といわれる作品。



監督：木下恵介 ©1959松竹株式会社
出演：岸恵子 久我美子

1959年/35ミリ/カラー/78分/松竹

6 (月・祝) 14:00 | 15 (木) 14:00 | 19 (日) 14:00

香華

明治37年の紀州。地主の妻の郁代は夫が亡くなるとすぐに別の男と結婚し、娘の朋子を遊郭に売ってしまう。利発な朋子は成長し芸者となるが、年をとっても淫蕩な母親と暮らさなければならぬ。有吉佐和子のベストセラー小説の映画化。母親と娘の60年間に及ぶ大河ドラマで、主演の乙羽信子と岡田茉莉子の演技が素晴らしい。



監督：木下恵介 ©1964松竹株式会社
出演：乙羽信子 岡田茉莉子

※途中5分間の休憩あり
1964年/35ミリ/モノクロ/201分/松竹

9 (木) 11:00 | 22 (水) 14:00 | 26 (日) 14:00

永遠の人

阿蘇の地主の息子・平兵衛は、小作人の娘さだ子を恋人がいると知りながら強引に嫁にしてしまう。さだ子は3人の子供を産むが、何年たっても平兵衛への恨みは消えなかった。不幸な結婚をした夫婦の30年間に渡る愛憎の物語。主演の高峰秀子と仲代達矢の演技は見事。アカデミー外国語映画賞にノミネートされ、主演の二人は毎日映画コンクールで女優主演賞と男優主演賞を受賞。



監督：木下恵介 ©1961松竹株式会社
出演：高峰秀子 仲代達矢

1961年/35ミリ/モノクロ/107分/松竹

9 (木) 14:00 | 18 (土) 14:00 | 23 (木) 14:00

衝動殺人 息子よ

京浜工業地帯で鉄工所を営む川瀬は、一人息子の武志に工場を譲る日を楽しみにしていた。ところが武志はある若者に理由もなく殺されてしまう。犯人は未成年であり、裁判の判決は川瀬にとって信じられないくらい軽いものだった。犯罪被害者遺族を補償する運動を描いた、佐藤秀郎のノンフィクションを映画化した社会派映画の傑作。主演の若山富三郎は毎日映画コンクール男優演技賞、日本アカデミー賞最優秀男優賞などを受賞。



監督：木下恵介 ©1979松竹=東京放送
出演：若山富三郎 高峰秀子

1979年/35ミリ/カラー/131分/松竹=東京放送

	1・水	休映日			
木	2・木	11:00 花咲く港	14:00 歓呼の町		
	3・金/祝	11:00 女	14:00 破れ太鼓	16:30 破戒	
	4・土/祝	11:00 婚約指環	14:00 善魔	16:30 遠い雲	
	5・日/祝	11:00 太陽とバラ	14:00 海の花火		
	6・月/祝	11:00 風花	14:00 香華		
	7・火	休館日			
	8・水	休映日			
	下	9・木	11:00 永遠の人	14:00 衝動殺人 息子よ	
		10・金	11:00 歓呼の町	14:00 女	
	恵	11・土	11:00 花咲く港	14:00 海の花火	17:00 婚約指環
		12・日	11:00 歓呼の町	14:00 善魔	
	介	13・月	休館日		
14・火		休映日			
監	15・水	11:00 破戒	14:00 香華		
	16・木	11:00 善魔	14:00 女		
督	17・金	11:00 婚約指環	14:00 海の花火		
	18・土	11:00 破れ太鼓	14:00 衝動殺人 息子よ	17:00 太陽とバラ	
特	19・日	11:00 遠い雲	14:00 香華		
	20・月	休館日			
集	21・火	休映日			
	22・水		14:00 永遠の人		
	23・木	11:00 風花	14:00 衝動殺人 息子よ		
	24・金	11:00 遠い雲	14:00 太陽とバラ		
	25・土	11:00 花咲く港	14:00 破戒	17:00 風花	
	26・日	11:00 破れ太鼓	14:00 永遠の人		
	27・月	休館日			
	28・火	休映日			
	29・水	休映日			
	30・木	休映日			
31・金	休館日				

木下恵介監督 プロフィール



1912年静岡県浜松市生まれ。小学生の頃から映画ファンになり、早くから映画の道を志す。33年に松竹蒲田撮影所現像部に入る。島津次郎監督の撮影助手を経て、36年に助監督部に移籍、島津監督や吉村公三郎監督の作品で助監督を務める。

監督デビューは、43年の「花咲く港」。同じ年「姿三四郎」でデビューした黒澤明とともに最も期待される新人監督と称され、以後黒澤明監督とは何かとライバル視される。51年日本初のカラー作品「カルメン故郷に帰る」を監督。「二十四の瞳」(54年)ではアメリカ、ゴールデングローブ賞を受賞する他、映画賞を独占する。大ヒットを記録した「喜びも悲しみも幾歳月」(57年)、歌舞伎の様式を取り入れた「楢山節考」(58年)など常に実験的な試みを取り入れながらも、観客を魅了する完成度の高い作品を作り続ける。

64年「香華」を最後に松竹を退社。テレビに進出し「木下恵介アワー」など数多くのドラマを手掛けながら、「衝動殺人 息子よ」などの映画を監督する。劇映画最後の作品は監督49作目の「父」(88年)。77年紫綬褒章、84年勲四等旭日小綬章を受章。91年国の文化功労者に選ばれる。98年、86歳で死去。

その抒情性の高さで、日本人の観客に最も愛された監督の一人だが、日本映画史の中でエポックとなるような作品、常に実験的な心を忘れない映画製作など、日本映画を代表する巨匠の一人であった。今回の特集では誰もが知る木下監督の名作ではなく、コメディや社会派、文芸映画など、様々なジャンルでも完成度の高い作品を作った木下恵介の多面的な才能に迫る。

information

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表): tel.092-852-0600

映像資料課: tel.092-852-0608 fax.092-852-0609



福岡市総合図書館映像ホール・シネラ ホームページ

うえぶシネラ <http://www.cinela.com>

Access

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

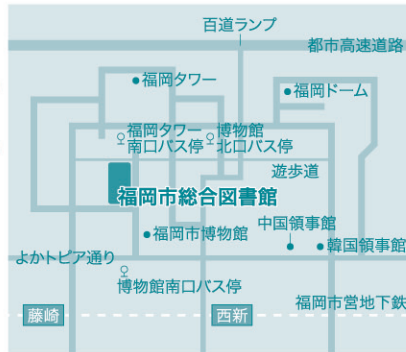
市営地下鉄

西新駅または藤崎駅下車徒歩15分

西鉄バス

●博多駅、天神、西新から福岡タワー南口下車徒歩5分または博物館南口下車徒歩5分

●藤崎から福岡タワー南口下車徒歩5分
◎所要時間は交通事情により異なります。バス運行時間、目的地までの所要時間の目安、またお近くのバス停からのご利用については西鉄お客様センター[tel.0570-00-1010]に直接お問い合わせください。



第329回プロムナードコンサート

◆◆◆月に一度のお昼休みのクラシックコンサート◆◆◆

日 時: 2013年5月28日(火) 12:00~13:00 ※入場無料

場 所: 西日本シティ銀行本店1Fエントランスホール(福岡市博多区博多駅前3-1-1)

曲 目: プラームス作曲 弦楽四重奏曲第1番ハ長調 Op.51-1 他

演奏者: 福岡ハイドン弦楽四重奏団

主 催: 公益財団法人福岡文化財団 TEL.092-473-6777

